

教材集使い方の手引き

★活用に当たって

この教材集は、「日本語指導ハンドブックその1」の内容を踏まえ、指導法に変化をもたせた繰り返し学習や発展的な内容を取り上げることで、日本語の定着を一層確かなものとするを目的として編集しました。指導する児童・生徒の発達段階や日本語の習熟の程度に応じて、学習時間等を調整しながら活用してください。

1 各単元の構成について

本書は15単元で構成され、1単元の標準指導時間を原則2単位時間としています。平仮名、片仮名の学習を冒頭に位置付け、その後、物の名前や方向、単位など日常生活においてよく使われる表現、そして最後に基本的な漢字の成り立ちを取り上げています。

後半では、いくつかの単元で活用できる補助資料を取り上げています。各単元内の指導資料と合わせ、より楽しく学ばせたり、学習内容の確かな定着を図ったりする場合などに、実態に即応して活用してください。

2 単元の項目について

(1) 指導目標

単元（原則2単位時間）でねらいとする目標です。複数の目標を示している単元については、段階を追った目標になっています。

(2) 指導内容

単元で指導する文型や語彙等を、段階を追って示しています。

(3) 指導計画

2単位時間（第15単元のみ4単位時間）の指導の内容や流れを示しています。

(4) 指導のポイント

指導する際、特に気を付けることなどを示しています。

(5) 期待される成果等

単元を指導することによって得られる成果を具体的に示しています。単元の目標以外に期待される成果も含まれています。

(6) 補充・発展的な学習課題例

単元の指導内容の確実な定着を図るための、補充学習として活用できる課題の例や、より発展的に学習を進める際のヒントなどを示しています。

(7) 実践例

単元に沿って実際に指導した結果等について掲載しています。

(8) 教材

各単元の後ろ2ページと本書後半の補助資料（P 67～）には、すぐに使える教材を掲載してあります。第3単元（17ページ）の写真と本書後半の資料（82ページ）と貼り合わせ、フラッシュカードとして活用することもできます。資料83ページと84ページについても同様です。

3 その他

- (1) 児童・生徒は、一人一人学習の進度や言語能力が異なります。指導時間どおりに進めたり終わらせたりするのではなく、学習者の習得状況を踏まえ、個に応じた進め方をしてください。
- (2) 小学校低学年の児童と中学生を比較すると分かるように、発達段階によって必要な言語も効果的な学習活動も違います。補充・発展的な学習課題例や実践事例を参考に、指導してください。
- (3) 言葉は1回の指導のみで覚えられるものではありません。前時の復習をしたり、既習表現で積極的に話しかけたりするなど、児童・生徒が聴覚や視覚を働かせて繰り返し学習できるようにしてください。